

# 習氏訪日 中国から妥協引き出せ

東大教授 松田康博氏



まつだ・やすひろ 平成9年、慶應大大学院博士課程単位取得退学。15年、博士（法学）防衛庁（現防衛省）防衛研究所主任研究官、東大東洋文化研究所准教授を経て、23年から同教授。専門は東アジア国際政治、中台関係。54歳。

米国との外交状況は現在、対米関係が極めて悪化し、欧州との関係も予想外に悪くなっている。新型コロナウイルス感染症の流行で国際会議はオンライン方式ばかりになってしまった。習近平国家主席にとり日本への公式訪問は数少ない外交的な晴れ舞台になる。このため中国は国内的に「日本は友好国だ」という雰囲気を醸成している。中国側は習氏訪日の早期実現を狙うはずだ。

安倍政権は結果として中台双方と良好な関係を築いた極めて珍しい政権だった。その要因として、中国に対する安易に妥協しないまま粘り強く関係改善を働きかけたこと、台湾に対して実質的な関係強化策が実らなくても、首脳榜示していることは、中国にとり安心材料だ。首相の手堅い政治スタイルもサプライズが少ないと見えて安心要因だろう。

中国の外交状況は現在、対米関係が極めて悪化し、欧州との関係も予想外に悪くなっている。新型コロナウイルス感染症の流行で国際会議はオンライン方式ばかりになってしまった。習近平国家主席にとり日本への公式訪問は数少ない外交的な晴れ舞台になる。このため中国は国内的に「日本は友好国だ」という雰囲気を醸成している。中国側は習氏訪日の早期実現を狙うはずだ。

一方、中国は安倍前首相の実弟、岸信夫衆院議員の防衛相就任を非常に警戒している。岸氏は親台派であり、安倍前首相の名代として台湾との関係を動かしてきた。台湾側はこれまで実現を求めてきたが、なかなかわなかつた日台の防衛関係の交流で、何らかの突破を期待するはずだ。

菅政権下の日中関係は、当面双方が「改善の途上にある」と言い続ける、宙づり状態になる可能性がある。だが、この状況は悪くない。「安定した日中関係の継続」は双方にとって利益となる。また、習氏が訪日を望むのであれば、対日関係を改善させねばならず、日本が中国から何らかの妥協を引き出す機会となりうる。（聞き手 田中靖人）

菅政権下の日中関係は、当面双方が「改善の途上にある」と言い続ける、宙づり状態になる可能性がある。だが、この状況は悪くない。「安定した日中関係の継続」は双方にとって利益となる。また、習氏が訪日を望むのであれば、対日関係を改善させねばなら